

瀧塔山龍蔵寺案内図

千三百年前約文武二王の九十九ヶ所神宮大御所と崇められた處、役行者が
 聖徳太子から授けられ、唐の阿闍梨に紀州府野間郡を遷し、秘法の
 龍蔵寺を創建し「龍の窟」と名付けたことに始まったと伝えられる。
 ついで天平十三年(七四一)村邊理麻呂の遷移に當り、龍蔵寺を龍蔵
 を龍の字を添えて龍蔵寺と名付けた。大内氏、室町氏の時代に
 は室の守護寺とされ、一般民衆からも深い信仰を蒙った。



見どころ

1. 龍蔵寺の歴史
2. 本尊 馬頭観世菩薩像
3. 十一面千手観音像
4. 伝言谷等撰作 三十三所の結馬
5. 伝言舟作駒つなぎの結馬
6. 天然記念物 大銀杏
7. 龍蔵寺の塔
8. 水子地蔵尊 聖児の塔
9. 龍蔵寺の池
10. 龍蔵寺の山
11. 龍蔵寺の石
12. 龍蔵寺の樹
13. 龍蔵寺の土
14. 龍蔵寺の空
15. 龍蔵寺の心

見ごろ

1. 春
2. 夏
3. 秋
4. 冬

当寺行事

1. 春
2. 夏
3. 秋
4. 冬

三木造大日如来坐像

(昭和一九年九月五日指定)

大日如来は、真言密教の根本仏です。

この仏像は、高さ九八、八センチ、檜材の一木造りで、膝部分に浅く内彫りが施され、布貼りの上にさらに漆箔が貼られています。

顔の表情や衣文の手法などから、製作年代は平安時代後期と考えられます。保存状態も良く、県下では当該期の仏像の代表的なものです。

国指定重要文化財

三四天王図鎗金扉

(平成三年六月二日指定)

この作品は、本来、厨子の扉で、十四世紀初頭元時代に中国の平江(現蘇州)の地で漆工を請うよって製作されたものです。

上下二面ずつ左右四面で構成され、現在、右下段が欠失しています。残る三面には、中国の伝統的な図像を基本として、ラマ教図像の影響があること、これら持国天像、增長天像、広目天像が、鎗金技法により描かれています。現存する鎗金漆工品の数少ない中で、まさに本件のような作品は、全国的にも見あたりません。

なお、鎗金とは、日本では文金と呼ばれる技法で、漆仕上げをした表面に図様を浅く線刻し、このくぼみに新たに漆を塗り込み、刻線の上に漆で金箔を押し込む技法です。

山口県指定有形文化財

三木造千手観音菩薩坐像

(昭和四十二年六月五日指定)

当寺境内にある観音堂の本尊で、開帳仏です。

榎材の寄木造りで、像高は七五センチです。素木ですが、宝髪や眉、眼唇に朱や墨などを使っています。

鎌倉時代の製作と考えられます。

山口市指定有形文化財

三木造毘沙門天立像

(昭和四十二年六月五日指定)

三木造不動明王立像

両像とも、高さ二メートルあまり、檜材の寄木造りで、鎌倉時代の製作です。ともに内側に銘文があり、その銘文から、この二体が一對として作られたものと